

ふるさと わがまち わが地域

峰山町 11区

見どころいっぱい 地区内散策

み、おしゃべりをするのが昔からの習わしだそうです。

11区はこじんまりとした区ですが、それでも散策するといろいろ面白い風景に出合います。まずは「五幸稲荷神社」。おなじみ太刀振りや奉納される11区の氏神様です。昔はいろいろな場所を転々としていたように、五幸稲荷神社には穀物を司る保食命（うけもちのみこと）と

安の祇園社境内にあった恵比須宮の事代主命（ことしろぬしのみこと）が祀られています。続いてのランドマークは「カトリック峰山教会」です。京都新聞によると、1979年に建てられたこの教会は、舞鶴聖母病院の小さな聖堂が解体されるとも足を運び、古材をもらい受けて造ったそうです。この教会では、お祈りの後、信者たちが皆でお茶を飲み、菓子をつまみ、おしゃべりをするのが昔からの習わしだそうです。



五幸稲荷神社



カトリック峰山教会



歩いて楽しい路地

すが、昭和32年7月27日に現在の場所に移され、遷宮祭が行われたようです。五幸稲荷神社には穀物を司る保食命（うけもちのみこと）と

この教会では、お祈りの後、信者たちが皆でお茶を飲み、菓子をつまみ、おしゃべりをするのが昔からの習わしだそうです。

隔年おきに出動し、9月中旬過ぎから秋祭り本番まで約3週間、厳しい中にも和気藹々とした雰囲気の中で昼夜練習を行っています。

他地区からの応援も含め、総勢150名の一大イベント！

天保12年（一八四一年）、富貴屋と田町（後の堺）に城下町火消し、七番組の纏（まと）の吹貫（ふきぬけ）と、山車（だし）五幸山を持つて祭礼を賑わしていたという記述が残されています。

長い歴史の中で、区画整理がなされ現在の11区は、富貴屋と堺の集合区で構成されています。昔は勢いのあった町衆の集まりであったと想像されます。

昭和28年当時の様子

その後、しばらく奉納が途絶えていましたが、五幸稲荷と先人たちの思いを末永く継承する責任があると認識され、太刀振り保存会が設立。第一十一区五幸太刀」と名称も統一されました。

追記 中邑源喜氏は、昭和28年から昭和33年まで区長、その後町議を務められました。昭和37年12月8日に亡くなられました。（議会事務局調べ）

みんなが主役 第11区 五幸太刀

28年、戦後の混乱から区民の人たちに心の潤いと夢、区民の融和を求め、当時の中邑源喜区長は、町衆の実力者と相談して区民総出で祭りに芸能

鼓、太刀・楽一式その他衣装などの備品を購入されました。そして震災記念館で連日連夜猛練習をしたそうです。

博していました。

その後の伝承は体と音感で覚えるというきわめて原始的な伝授方法でした。幸い区内在住の尺八の師範、今西三郎氏が楽譜に書き換えられ現在もそれで楽を奏でています。そして、同年7月、地元五幸稲荷神社に初奉納し、それ以来秋の金刀比羅神社祭礼に奉納。

現在のは区の組織の中で「太刀振り委員会」が巡行奉納割を担います。近年は

以上、峰山伝統芸能振興会発刊の記念誌を参考に区内長老にまとめてもらい寄稿頂きました。



昭和28年当時の様子



金刀比羅神社で本振りを奉納（平成25年）